

3 水道のあゆみ

②水道ができてかわったくらし



水道は、どのようにできたのかな。

福岡市では、多くの人たちがコレラなどで、亡くなったので、市民の健康を守るために水道をつくる必要になってきました。

しかし、福岡市始まって以来の大工事となるために、計画されてから工事が始まるまでに、たくさんのお金と長い年月がかかりました。

そして、福岡市ではじめてつくられた曲漕ダムと平尾浄水場が大正12(1923)年に完成し、福岡市の水道が開始することになり、令和5(2023)年3月1日で、100年をむかえました。



水道の完成を伝える当時の新聞 (大正12年3月1日福岡日日新聞)



水道ができてから、人々のくらしは、どのようにかわっていったのかな。

水道がなかったころ

水をくみあげたり、運んだりするのは、重くて、たいへんよ。



水道ができてから

じゃ口をひねるだけで、きれいで安全な水が出て、家事がらくになったわ。



はじめは、利用者が少なかった水道でしたが、その後、水道のよさが多くの人々にわかるようになり、水道を使う家がしだいにふえていきました。

多くの人々が水道の水を使うようになって、コレラなどの病気もはやらなくなり、安心して生活できるようになりました。



○福岡市ではじめてつくられた水道用ダム(曲漕ダム)

このダムは、大正12年(約100年前)から現在も使われている歴史のあるダムです。



○福岡市ではじめてつくられた浄水場(平尾浄水場)

この浄水場は、今の植物園の場所にありましたが、あたらしい浄水場ができて廃止になりました。



○現在、植物園に残っている平尾浄水場の建物の一部



曲漕ダムと平尾浄水場は、完成までに7年の長い年月と868万円という当時としては、たくさんのお金がかかりました。(今のお金にすると48億円くらいです)
このはじめての水道は、市内の35,200人にきれいな水を配りました。1日に送り出せる水の量は、今の学校のプールの約42はい分(15,000 m³)でした。

水道マメ知識④

水道のよさを宣伝した「上水之葉」

水道がつくられたころは、人々は水道のことをよく知りませんでした。

そこで、福岡市は、「上水之葉」(冊子)をくばって水道の利用を呼びかけました。

「上水之葉」に書かれた主な内容

「コレラでも、チブス赤痢も何のその、水道ひけば家内安全」

「料理に使えば、味良く、やわらかくにえ、ねまり方(くさり方)もおそい。」



大正12(1923)年に作られました。

(ねらい) 水道が設置されて、人々は便利で衛生的なくらしができるようになったことを、水道設置前の様子と対比させながら気づかせてください。

(解説) ●福岡市の大正12年度の予算は、約260万円(現在の価値に換算すると約14億円)であることから曲漕ダムを造るのにいかに莫大な費用がかかったのかが分かります。

●福岡市の大正12年末の人口は142,519人です。

●曲漕ダムと平尾浄水場の建物の一部は、福岡市の近代化を支えたことが評価され、平成21(2009)年3月に福岡市有形文化財に指定されました。

(解説) ●「上水之葉」は水道が完成した大正12年に市役所が市民に水道の使用を普及させるために配布したものです。

●「上水之葉」の「上水」とは下水道に対する言葉で、上水道(水道水)を意味しています。